令和３年度　大木中学校学校経営改革方針

【めざす学校像】　「生徒と教職員の笑顔が通う学校」　～すべての生徒が安心して学べる学校～

【学校教育目標】　「生きる力」を身につけ，未来を切り拓く生徒の育成

【めざす生徒像】　○ 自ら学び，仲間と高めあう生徒　○ 笑顔であいさつする生徒　○ つながりを大切にする生徒
○ 命を大切にする生徒　○ 地域を愛する生徒

【めざす教職員】　○ 授業改善と指導力向上に努める教職員　○ 「想い」を聴ける教職員　○ つながりを大切にする教職員　○ 共に学び続ける教職員

	達成方策	R3年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
確かな学力の育成	主体的，対話的な深い学びの実現 （学び合いによる協働的な授業の創造）	①指導主事や外部講師を招聘しての公開研究授業を各学期1回実施する。 ②授業公開週間設定し，すべての教員が公開授業を行い，授業力を向上させる。 ③市内外の授業研究会に積極的に参加(1回以上)し，よりよい指導方法を学ぶ。 ④「指導と評価の一体化」に向けて指導主事を招聘しての研修会を実施する。 ※学校アンケート「授業で発表したり，グループ学習の時に自分の意見を言ったりして，意欲的に学習している」に肯定的な回答　生徒85％以上(昨年度80.8％) ※鳴門アンケート「新学習指導要領の理解に基づき，指導を行っている」に肯定的な回答　教員95％以上(昨年度90.5％)	①達成 ②達成(1学期と2学期に2週間程度ずつ公開週刊を設定。指導案作成もおこなった。) ③数名は参加できている。しかし全員一回以上の参加はできていない。これにはコロナウィルス感染症の拡大が原因である。 ④指導主事を招聘して評価に関する研修会を行った。 ※学校アンケート「授業で発表したり，グループ学習の時に自分　の意見を言ったりして，意欲的に学習している」に肯定的な回答　生徒78.6％(昨年度80.8％) ※鳴門アンケート「新学習指導要領の理解に基づき，指導を行っている」に 肯定的な回答　教員96.2％	①1学期は評価に関して、2学期はICTに関して授業公開・研修を行い、事後検討会の持ち方もICTを取り入れて工夫を行った。教職員に対するアンケートからも日々の研鑽や意識の向上につながったという好意的な意見が多くみられたので、継続していく。 ②お互いが授業を見合う、という点では効果が見られたが11月の公開週間はコロナの影響でずれ込んだ学校行事と重なり、教職員に多忙を強いたため、必要に応じた時期の検討を要する。 ③コロナ収束後促進したい。 ④目標には達しなかったが、意欲に関して1学期と比べ6.4ポイント上がっているので、一定の成果が見られる。生徒のつながりや意欲を引き出す授業に関する研鑽を引き続き行う。	・グループ学習では、楽しそうに相談したり考えたりしていて、他の授業も想像できてよかった。 ・グループ学習を中心に生徒同士が教えあうことでより深く理解できてよい。コロナ禍でのグループ学習の在り方が課題。 ・1学期に授業参観の機会がありよかった。 ・授業研究、研究会に参加して頂き，子どもたちにしっかり伝わっている。	②③に関して、時勢を見つつ、できる範囲で促進に努めたい。また、道徳との兼ね合いを考慮して何を公開研修として取り上げるか吟味し、助言や内容に一貫性を持たせるよう留意する。 ※に関して、今年度のアンケート結果を受けて、数値目標を定めていく。 ※鳴門教育アンケートの結果が出るのが学年末のため、次年度より判別項目から削除する。
	基礎学力の定着（家庭学習・学習支援・読書活動の充実）	①生活ノート「MY　LIFE」を活用した自主的な毎日の復習や振り返りの推進。 ②家庭と連携した「学習習慣・生活習慣などのチェックシート」（2回）の取組。 ③定期考査前の補充学習（2日間），夏季休業中の補充学習（4回以上）の実施。 ④1，2年生は朝の10分間読書，全校では，読書週間（2回以上）を実施。 図書館便りの発行，多読賞による読書活動の啓発（年2回） ※全国学力調査，みえスタディ・チェック正答率全教科県平均以上 ※学校アンケートで「家庭学習にしっかり取り組んでいる」に肯定的な回答生徒80％以上（昨年度74％），保護者70％以上(昨年度57.3％) ※鳴門教育大学アンケート「意欲的に取り組むよう授業の工夫している」に“非常にそう思う”と回答　教師60％以上（昨年度52.4％） ※学校アンケート「朝の読書以外に読書をしている」に肯定的な回答 生徒70％以上(昨年度52％) ※図書貸し出し冊数2000冊以上	①達成。 ②達成。 ③達成。 ④達成。多読賞は個人とクラス単位で実施。 ※全国学力調査は県平均と同じ、みえスタディ・チェック1年生は国数理で－5％、2年生は国数理で＋3～5％ ※学校アンケートで「家庭学習にしっかり取り組んでいる」に肯定的な回答66.7％，保護者63.7％ ※鳴門教育大学アンケート「意欲的に取り組むよう授業の工夫している」に “非常にそう思う”と回答　教師26.9％ ※学校アンケート「朝の読書以外に読書をしている」に肯定的な回答　生徒52.7％以上 ※図書貸し出し冊数12月現在で1600冊。	①評価体制の変化に伴い、各教科で自主学習等の課題が増えたため、来年度に向けて検討の必要がある。現時点で、1・2年生は学習習慣をつける目的で継続、3年生は学習教材との併用に負担が大きいと考えられるため、日記スペースのみの活用を検討している。 ②継続。 ③学習に苦手意識をもつ生徒も積極的に参加する姿が見られたので、継続していく。 ④結果は通信を通して生徒保護者に周知し、自己分析につながるよう活用した。また、結果を受けて、教科担当で強みと弱みを分析し、全職員に周知を行い、各授業者で授業改善につなげた。 ※貸出し冊数は休校期間もあり、達成が厳しい。また、授業での活用や、読書の推進が国語科のみのため、これ以上の促進が見込めない。	・生活ノート（MY　LIFE）、学習チェックシートは、生活習慣、学力が自分にも保護者にもよくわかり，、習慣化することで効果は得られるのでるので、これからもしっかり取り組んでもらいたい。 ・自分の興味のある本などたくさん読んでほしい。 ・日常的に読書を行うことで、文章能力はもちろん文章の奥にある考え方を学べるので、引き続き行ってほしい。 ・話題性のある本や読みやすい本など幅広く入っており、子どもたちのことを考えて選書されている。図書館巡回指導員さんに、ブックトークや読書推進につながる授業をしてもらうと良い。 ・読書の習慣ができている生徒とそうでない生徒の差が大きい。今後も様々な工夫をして頂きたい。	①に関して、次年度生活ノートに関しては1，2年生は学習スペースのあるものを、3年生に関しては進路学習教材と併用しつつ、負担を考慮した上で、日々の学習習慣の定着を目指す。 ④に関しては、今年度のアンケート結果を受けて、数値目標を定めていく。 ※項目の数値目標の中で、非常にそう思う、肯定的な意見、という混在が見られたので、今後肯定的な意見に統一する。 ※鳴門教育アンケートの結果が出るのが学年末のため、次年度より判別項目から削除する。
	ICTを活用した授業の改善（一人一台パソコンの有効活用）	①ICT活用指導力の向上（ICT研修2回以上）に取り組み，授業での有効活用を図る。 ※「教育効果を上げるために，コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する」に“できる”と回答　80％以上	①ICT研修を8月と11月に実施した。8月はICTの活用方法に関する研修、11月はその後各自が行ったICTを活用した授業実践を交流した。コロナ禍でオンライン授業が増えたこともあり、授業で意識的に活用する場面が増えた。 ※鳴門教育大学アンケート項目なし	①研修会のアンケートには「ICTの各ツールのメリット・デメリットを知れた。」「使ったことのないICTツールを使っていきたい」等前向きな意見が多くみられた。一方で、「自分には難しい」という率直な意見も依然としてある。教職員のICTに関する活用能力や意識の差を、研修はもちろん、教職員同士のつながりの中で縮小することが課題である。	・意欲的に取り組んでいる生徒が多く、今後も継続して指導してほしい。 ・オンライン授業の増加により有効活用は必要。目標８０％以上とあるが、達成実績がわからない。ほぼ全員が有効利用可能にしてもらいたい。 ・今後重視される分野なので、外部講師の活用も含め専門知識の確保をお願いします。 ・休校中のオンライン授業は色々工夫され、プリントやワークを進めるだけの課題よりも良かった。体育は兄弟も一緒に取り組める内容だったので楽しかった。 ・小学生からクロムブックを使用しているわけではないので、あまり使い方がわからなかった。 ・授業参観ができない分、オンラインで見せていただくのもよかった。	○教職員にも言えることだが、一人一台PCの過渡期のため、扱いに長けている生徒と、そうでない生徒の差が大きい。グループやペア等、生徒同士の関係性の中で、その差を縮めていく手立ての必要性がある。 ※鳴門教育アンケートの結果が出るのが学年末のため、次年度より判別項目から削除する。
豊かな心の育成	考え,議論する道徳の創造	①道徳の公開授業研究会の実施。 ②指導計画の作成と見直し及び取組の進捗状況の確認（月1回以上）。 ※学校アンケート「道徳の授業では，自分の考えを深めたり，仲間と議論したりする活動に取り組んだ」　肯定的な回答90％以上(昨年度87.5％)	①達成 ②達成 アンケートの回答結果、90.3％。	○各学年，学年会で道徳の授業の検討を実施した。生徒アンケートも高い結果を得ることができた。 ○道徳授業にシンキングツールを取り入れ、生徒の考えが深まるように工夫をした。 ICTを活用した授業構成をしたりする教職員も見られた。	・生徒たちの世界はまだ狭く偏った考えになりやすい所もあるので、今後も継続的に学ぶ場をつくってほしい。 ・様々な事情で他の教科より二の次になりがちな道徳こそ、子どもたちが成長して行く上で社会的にも精神的にも欠かせない教科。平等に教育を受けることのできる学校の大切さを感じます。 ・道徳と倫理との関係を少しでも学べさせたらどうか。 ・新たな取り組みの成果が数字に現れている。	多感な時期を迎えている生徒に多くの見方・考え方をさせられるよう、今後もシンキングツールやICTを活用させていく。 教職員が生徒に話すときにも、道徳で学んだことに関連付けて、授業だけで終わらないようにする。
	人権教育・多文化共生教育の推進（多様性の尊重）	①校区内の小中の連携を密にし，人権教育のカリキュラムを見直し（年間5回）。 ②小グループを活用したソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターによる人間関係作りを行う。（月1回） ③職員研修や情報交換を積極的に行い，多文化共生教育（日本語指導も含む）の指導 体制を確立させる。 ※学校アンケート「いじめや差別等の人権問題に真剣に取り組んでいる」に“非常にそう思う”と回答　生徒70％以上(昨年度65.8％)　保護者30％以上(昨年度18.3％) ※鳴門アンケート「クラスは人に対する思いやりが大切にされている」に“非常にそう思う”と回答　生徒60％以上(昨年度50％)	①達成 ②授業内での活用はできている。また、コロナウィルス感染予防として臨時休校もあったが、各学年の学活や総合を使って、学期に数回はできた。 ③複数の教員で国際教室を担当することで、生徒の学習状況を共有することができた。 ※保護者13.8％、生徒59％　肯定的な回答…保護者84.7％、94.1％ ※38.7％　肯定的な回答…89.2％	○人権部会実施が定例化し各学年での人権課題についての情報共有がより前年と同じようにできた。 ○人権講演会で講師の先生をお招きし、各学年で講話をいただいた。生徒は真剣に聞いており、その後の感想には自身を振り返ったり、自身にできることを考えたりした内容が多く書かれていた。 ○人権講演会にはPTAの方にも来ていただき、保護者との連携もとることができた。 ●学習内容を学年通信等を通して保護者へ積極的に伝えているが、なかなかアンケートでの「非常にそう思う」項目の割合は上がらない。個人の受け止め方に差はあるものの、引き続き通信等で伝えていく。また今年度のように、人権講演会を催す際はPTAにも伝えていきたい。	・③アンケートの「非常にそう思う」の割合より、アンケートの回答率の低さが気になります。 ・本当に深刻なことは表に出にくい。子どもたちの様子を見るのは楽しみですが、このご時世子どもの姿すら見かけなくなりました。先生方の目に見えない業務、ご指導の大変さを感じます。	部会を通して、学年や学校の課題を明らかにしながら、今後も情報交換を密にする。また、「出会い」を大切にしていけるよう、今後も講演会等をしていき、生徒・職員の人権感覚を高めたい。 アンケートに関して ・「非常にそう思う」だけにとどめず、肯定的回答として集約し、目標値を設定していく。 ・鳴門教育アンケートの結果が出るのは学年末のため、次年度より判別項目から削除する。

健康な身体と体力の育成	食育の充実	①お弁当の日の設定（各学期1回） ②学校栄養教諭との連携，お昼の放送の活用″	①お弁当の日を設定し、3回実施した。 ②学校栄養教諭と連携し、お弁当の作り方のポイントをオンラインで講義をした。毎日の給食ではお昼の放送を活用して給食メニューのアナウンスをして生徒に伝えた。	自分で弁当を作ることで、食べることの大切さを学び、自分の適正量やいろどりを考える機会になった。 しかし、コロナの影響で、他者とのコミュニケーションを取りながら楽しく食べる「共食」ができず、ひとりで食べる「孤食」「黙食」にならざるをえなかった。	・お弁当の日は よいと思う。栄養バランスがどの様に身体や心に影響を与えるのか、旬や地産ち地消を意識する生徒が増えるとよいと思う。 ・色々な研修やたよりは、楽しい給食時間や子どもの心身の成長につながる。生きていく上で欠かせない食育。 ・食の大切さを学び、コロナ禍で共食のできないことの大切さを感じてもらう。 ・コロナ禍で直接の対話はできなかったようですが、アナウンスだけでも一定の効果はあったのではないか。 ・お弁当作り、回数を重ねるごとに、子ども自身で「こんなお弁当を作りたい」と考えるようになってきている。 ・続けていってほしい。コロナ禍での共食をいかに行うか考えていくことが必要かも。 ・廊下にお弁当の写真があり、色とりどり栄養満点おいしそうでびっくりしています。	コロナ禍で、黙食しながらではあるが、今後もお弁当の日の継続、学習の機会を工夫しながら作っていく。 保護者に対しても、協力を求めていく。
	保健・健康教育の推進	①ほけんだよりの発行（月1回） ②アレルギー及び事例研修の実施（必要に応じて随時実施） ③生徒指導部会及び生徒支援部会での情報共有（毎週）	①について、感染症の流行の状況があったため、例年の内容で定期的な発行はできなかった。熱中症や感染症予防に重点を当てた内容で実施した。 ②について、感染症の流行により、行事日程の変更や学習面での対応があり、全体での研修時間はとれなかった。 ③について毎週の部会で情報共有やケース検討を行い組織的な対応を図ることができた。	本年度は新型コロナウイルス感染症の変異株流行があり、更なる新変異株の流行があり、緊張や緩みもあったが、心身の不安底予防対策も試行錯誤の中、意識をもって全体で取り組むことができた。流行は続いており、今後も予防対策は重要である。特に予防意識の維持が大きな課題である。、保健活動全体が感染症対策に圧迫され、十分に実施できなかった点が課題となった。	・コロナ禍での保健活動、対策などは毎日大変だと思う。 ・どれが正解なのか、不透明なコロナ禍での対応は難しかったと思う。	感染症対策の意識の維持向上に向け、具体的な学びを深めつつ、実践に努め、標語的呼びかけにならないよう学校全体での感染症対策を引き続き実施していく。 感染症対策をとりながらも、健康診断、その他の保健活動の取り組みを工夫によって進めていく。
自律し未来を切り拓く力の育成	基本的な生活習慣の確立	①毎週月曜日，教職員による挨拶運動を行う。 ②学校・学年通信などで，子どもの様子を積極的に保護者に伝える。（HPの活用） ③生徒指導体制を確立するとともに，家庭や地域社会，関係機関との連携を図り，生徒指導の充実に努める。 ※学校アンケート「あいさつをしている」で“非常にそう思う”と回答 生徒70％以上(昨年度62.5％)　保護者50％以上(昨年度42％) ※学校アンケート「あなたの周囲の仲間は，ルール（規則）を守っている」で“非常にそう思う”と回答　生徒70％以上 ※学校アンケート「間違った行動に対してきちんと指導してくれる」に“非常にそう思う”と回答　生徒75％以上(昨年度71％)	①4月当初に全職員に提案し、週ごとに分担をした。 ②学校通信は月2回以上、学年通信は月1回以上発行 ③家庭訪問や地区補導などで連携を図った。また、関係機関との連絡も密に行った。 ※学校アンケート(14)・(9)「あいさつ…」 生徒43.8％▲18.7 保護者21.8％▲20.2 ※学校アンケート(16)「あなたの周囲の・・・」36.9％新設 ※学校アンケート(14)「間違った…」生徒62.8％▲8.1	②通信は、定期的に発行している。保護者の要望としてはHPにより情報発信を求める声がある。 ③校内で会う教員に対して自発的に挨拶する生徒は多い。保護者アンケートとの差は依然として大きい。校内外問わず、自発的に挨拶する生徒を育んでいきたい。 間違った行動に対する・・・という質問に対しては昨年度より0.6ポイント上回った。生徒の行動に寄り添いながらも必要に応じて指導している。（肯定的な回答96％） ルールを守っている・・・のアンケートは生徒・保護者ともに低下している。守っていないが指導されていないもしくは改善されていないと感じている生徒が一定数存在するので、教職員の指導のラインをそろえ組織的な対応が必要である。	・挨拶運動時、声をかけると、どの生徒も挨拶してくれる。来校時に挨拶された時はとても気持ち良かった。自発的に挨拶することは、恥ずかしさから難しいとは思うが、学校全体、先生方の温かい雰囲気でそんな生徒が増えていけば嬉しい。 ・自発的な挨拶を増やし、自分の判断で行動に移すことのできる生徒育成を目指してほしい。 ・新校舎完成時、神戸中・平田野中を参考にできることがあれば行ってほしい。 ・校則の見直しを求めたい。通学用のくつの自由化、髪型の自由化など。自分たちでTPOを見極めて判断する力をつけてほしい。 ・アンケートで実態を把握することは重要。真の原因を追究し、それに対する対策実施が効率がよい。 ・挨拶運動の実施率が低いと感じる。昨年度より低下している。地域等との連携強化がもっと必要か。（今後の改善点・・・地域づくり等の関係者の参加も必要なのでは。）	・教職員の挨拶運動は今後も継続して実施していく。参加率の低下が指摘されています。年度当初の日程表配布だけでなく、生徒指導部や各学年会からも声掛け、確認をしていく。 ・生徒会執行部だけでなく、各種委員会や部活動などタイアップできる機会を設けて、挨拶される側ではなく、挨拶する側の体験を増やす。 ・校則の見直しに関しては生徒会で検討中です。生徒へアンケートを実施しそこから見直しへつなげていく予定。
	特別支援教育の推進	①研修部会や生徒指導部会と連携し，特別支援教育の共通理解を図る。 ②特別支援学級生徒の校区，校種を超えた交流を行う。（年間6回以上） ③関係専門機関との連携を推進する。 ※必要な生徒に対する個別の支援計画・個別の指導計画の作成及び見直し100％ ※学校アンケート「一人ひとりのことを大切に考え指導してくれる」に“非常にそう思う”と回答　生徒70％（昨年度65.8％）″	①支援部会での情報を定期的に生徒指導部会や職員会議で情報共有を行うこととができた。 ②新型コロナウイルス予防のためにリモート交流を3回（内、3学期に1回予定）行った。 ③関係専門機関との連携はしっかり行うことができた。 ※個別の支援計画・指導計画の作成及び見直し　100％ ※学校アンケート　生徒54.5％。	○授業担当者会議を開き情報共有を図り特性に応じた指導に繋げた。 ○新型コロナウイルス予防のためにリモート交流をおこなったが、交流の1つの方法として今後も考えていきたい。 ●個別の支援計画・個別の指導計画については、担当者のみの見直しにならないようにすることが必要。	・情報共有をしっかり行い、指導内容の確認で推進していただきたい。（今後の改善点・・・リモート交流の増加）	各学年の生徒支援担当が学年に情報を共有していく体制をしっかりと整えていく。 学年会等で情報共有をしっかり行い、指導・支援内容を確認していく。
	不登校の未然防止と自立支援の充実	①積極的な家庭訪問による信頼関係づくりや生活習慣改善への働きかけを行う。 ②保護者との連携を密にするとともに外部機関との連携を図る。 ③魅力ある授業づくりに取り組むとともに，個に応じた具体的な支援方法（適応教室，TT，取り出し等）や合理的配慮を推進する。 ④毎日の生活ノートでのつながりや学期ごとに教育相談を実施する。 ※学校アンケート「先生は何でも快く相談にのってくれる」に“非常にそう思う”と回答　生徒65％(昨年度58.7％) ※学校アンケート「学校は，子どもたちの相談に親身に応じている」に“非常にそう思う”と回答　保護者30％以上（昨年度25.4％） ※10日以上欠席の生徒10％以上減（昨年度44人） ※30日以上欠席の生徒20名以下　（昨年度28名うち不登校が原因8名）	①各担任を中心に心配な生徒に対して家庭訪問を行った。特に心配な生徒に対しては、不登校支援員の方が定期的に家庭訪問を行った。 ②SSW(ソーシャルスクールワーカー)、SC(スクールカウンセラー)、教育委員会等の機関と連携できた。 ③適応教室に10名利用。 ④各学期に生活アンケート、教育相談を実施。 ※学校アンケート「生徒は…」55.2％ ※学校アンケート「学校は…」10.8％ ※10日以上の欠席者34人 ※30日以上の欠席者18人（うち不登校が原因の欠席生徒15人）12月末現在	○適応教室の活用や担任を中心とした生徒、保護者との良好な関係づくりにより、10日以上の欠席が昨年より減少した。 ●アンケート結果より、先生は相談に快くのってくれる項目が生徒、保護者ともに目標より低かった。 ◇SCの助言を受け、適切な支援を行うことができた。しかし、SCの負担が大きくなり過ぎた。	・今も昔もむずかしい課題。先生の毎日のこつこつ熱心な関わりに、きっと生徒たちも心を開いてくれる。 ・引き続き、小学校との連携を大切にして進めてください。 ・休校後に、不登校や欠席の子が大木中に限らず増えていると思う。保護者も容認しているように見える家庭も多く、そこが問題であると思う。 ・このアンケート結果は、日々取り組んでいただいている教職員の皆様には厳しい数字ですね。 ・オンライン授業の増加により、登校の必要性をより感じなくなると、考える生徒が増加しないのか、その対応はできているのか分からない。	教育相談期間を設定はしているが、2学期は行事が重なり、生徒一人ひとりに親身に相談する時間と余裕がなかった。設定時期等を検討していく必要がある。 様々な支援を必要とする生徒が多くなってきている中で、普段の授業で合理的な配慮や適切な支援をすることが難しい状況もあった。今後TTや取り出しを行える体制も作っていく。 教員が具体的な合理的な配慮を行っていけるような研修をさらに積んでいく必要がある。
	キャリア教育の推進	①「職業調べ」（1年生）「社会人から学ぶ」（2年生）「高校授業体験講座」（3年生）の取組の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用し，自分の生き方について見つめることで系統だったキャリア教育を行う。 ③進路通信，進路説明会，保護者会を通じて様々な情報発信や相談会を行う。 ※鳴門教育大学アンケート「将来の夢や希望を持っている」 生徒75％以上(昨年度64.5％) ※ 学校アンケート「進路や職業について適切な情報提供や指導を行っている」に“非常にそう思う”と回答　生徒70％以上（昨年度64％）　保護者40％以上(昨年度23％)	①1年生は職業調べとその発表を行った。2年生は高校調べや職場体験学習の代替として、地域の社会人、様々な職種の方から働くことについての話を聞いた。3年生は、1学期は外部講師の招聘授業を2時間開催した。1時間目は塾講師による,家庭学習の計画の立て方、勉強の必要性。2時間目は高校教員による高校生活について。2学期は自分の進路を見直すために、自己を見つめる作文を書く授業を行った。 ②昨年度からキャリアパスポート導入、継続しより活用していく。 ③説明会や保護者会は感染症予防に注意し開催できた。 ※鳴門教育大学アンケート「将来の夢や希望を持っている」生徒61.3％ ※ 学校アンケート「進路や職業について適切な情報提供や指導を行っている」に“非常にそう思う”と回答　生徒55.2％　保護者9.6％	2学期はコロナ対応のた1か月休校になったため、キャリア教育については課題が浮き彫りになった。特に3年生は本格的に進路決定に取り掛かる9月に生徒と対面で話すことができず、生徒の進路への考えを把握し指導していくことが難しかった。また、10月には学校行事が多く開催されたため、じっくりと生徒に向き合いながら進められたのは11月に入ってからであった。このような状況、教育環境の中、最大限に可能なことはやってきたが、、学校が閉鎖されても持続できるキャリア教育を考えていきたい。	・生徒たちの明るい意欲的な将来のためにつながる取り組みをお願いします。 ・地域でも何ができることがあると思いますので、声をかけていただきたい。 ・今年度も職場体験学習ができず残念だったが、直接話を聞く機会を得られて よかったと思う。 ・職場体験がコロナ禍でできない為の活動が充実しつつあると思う。 ・自分の生き方について見つめさせる、生徒の未来に繋がる取り組みなので、何かあれば少しでも手助けをしてあげたい。	・本来の「職業体験学習」の意義、「生徒につけさせたい力」を教員間で共有しあい、その前後でのプログラムで、その趣旨に沿った授業デザインをして教育効果を高めていく。

	部活動の充実	①部活動運営方針に沿った運営を行う。(計画表の配布，活動内容の改善，週2日以上 の休日など) ②すべての部活動で保護者会を実施し，メール配信も積極的に利用する。 ※学校アンケート「部活動に積極的に参加している」に“非常にそう思う”と回答 生徒　75%以上(昨年度70%)　保護者　70%以上(昨年度65.2%) ※大木中学校部活動運営方針に基づいた休養日の遵守(100%)	①すべての部活動で実践できた。 ②すべての部活動で保護者会を実施した。メール配信も積極的に活用した。 ※学校アンケート　生徒59.3%　保護者39.9% ※休養日の遵守100%	○どの部活動も運営方針に沿って活動ができた。メール配信の活用に関しても、普段の生徒 の様子や活動報告も兼ねて多くの部が積極的に活用できた。 ●部活動に積極的に参加していると思う項目で生徒、保護者の割合が大きく低下している。 学校の部活動に対して取り組む姿勢や意識は大きく差があるように思う。年々この傾向は大 きくなってきている。	・コロナ禍で活動や試合が減少し、能力が上がらないと聞くこともある。改善は困難であるが、この年代のモチベーションにも繋がると思うので、できるだけの活動ができれば。(今後の改善点・・・地域で活動しているクラブと連携して実施する) ・部活動の大切さは社会に出ても、必須的行動になる。 ・部活動で、何を身に着けたいのかを考える時間があると、積極的に参加する気持ちがおおきくなるのでは？ ・コロナ禍で子どもたちがモチベーションを維持することが大変。コロナ後、元に戻れるようフォローをお願いしたい。 ・コロナ禍で、活動の制限があり大変だと思うが、できるだけ活動できるようお願いしたい。 ・一生懸命取り組む子が殆どだと思いますが、遊びたいから、めんどうだからと、簡単に休む子には少し厳しく指導しても良いのではないか。	保護者に対して、部活動に対してのさらなる理解と協力を図っていく。 引き続きメール配信等で活動の様子や生徒の様子を知らせていく。 コロナウイルスの影響もあり十分に部活動が行えない状況もあったが、そのような状況下でいかに充実した活動にできるか考えていく。 外部の活動が盛んになる状況の中、生徒の取り組む意欲に差がある。学校教育の中での部活動の在り方を再度考えていかなければならない。
	生徒会活動の充実	①全校生徒が生徒会活動を積極的に取り組めるように生徒会通信の発行(月1回)や生徒会集会を行うことにより，生徒会活動と学級との連携を図る。 ※学校アンケート「生徒会の委員会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」に“非常にそう思う”と回答　生徒70%以上(昨年度67%)	①通信は、月一回の発行を達成。しかし、生徒の活動への取り組み方には課題が残った。 ※学校アンケート「生徒会の委員会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」に“非常にそう思う”と回答　→　55%	◇コロナ感染対策のため生徒会集会の開催は行えず。オンラインでの始業式・終業式で、学期の振り返りや、学校行事の反省などを促した。 ○ICTを活用し、学級対抗のクイズ大会をオンラインで開催。これによって学級と生徒会が繋がる機会ができた。 ○給食時の放送で生徒会の活動などを伝えることで、生徒の生徒会への理解や興味をひいた。 ●生徒の要望を生徒会の活動に反映させることが少なかった。生徒の意見を聴く機会や仕組みを作ることが必要	・ICTを活用してのクイズ大会や給食時の放送など工夫に感心した。制限があるものの生徒自ら活動できる雰囲気の学校であってほしい。 ・なぜ生徒の要望を反映することが少なかったのか、生徒会で考えることができればいいですね。 ・たくさん立候補する子がいて、活気があってよいことだと思う。	・クイズ大会やお昼のラジオ放送などは、生徒の反応も良いため、来年度以降も実施予定。 ・①生徒が要望を出す機会が少ないこと ②要望を受けても検討・実行までの目途が立たないこと、が要望を反映することができない要因と思われる。生徒会活動の予定・計画を設定し、計画的な運営ができるよう努めていく。
安全で安心な学校づくり	いじめのない学校づくり	①全教職員がいじめ問題への認識と自覚を深め，人権感覚を高めるための研修や校区小学校との連携を深める。 ②生徒が主体的にいじめ問題について考え，行動できる取組を推進する。 ③毎日の生活ノート，定期的なアンケートや教育相談を実施し，生徒がいじめを訴えやすい体制を整える。 ※鳴門教育大学アンケート「学校は，いじめや暴力などの問題が起きたときに，適切に対応している」に肯定的な回答 保護者90%以上(昨年度84.7%) ※鳴門教育大学アンケート「クラスでは安心して学ぶことができる」に肯定的な回答　生徒95%以上(昨年度91.2%) ※ いじめアンケートの実施(年3回)及び認知事案についての対応(100%)	①校区小学校との研修会や連携を行った。 ②道徳や総合、学活などで生徒間の横のつながりを増やし、相互の理解を高める取り組みを進めた。 ③生活ノートの提出により教員と生徒の関係構築に役立てている。また、定期的なアンケート・教育相談は計画通り実施できた。 ※鳴門アンケート「学校は…」 84.7% ※鳴門アンケート「クラスでは…」 90.6% ※今年度、いじめ認知件数20件(2学期まで)　対応も行った。前年比8件増	○いじめアンケートやいじめを認知した際には学年職員を中心に早期対応・解決につながるように取り組み、重大事案にならないようにした。 ◇全国と比較し、鈴鹿市のいじめ認知件数は少ないが、今後もアンテナを高くして、未然防止に努めていく必要がある。 アンテナ高く、生徒に寄り添いながら未然防止に努めているが、SNS上のトラブルでは問題発覚した際にすでに深刻化している場合もある。学校だけでなく家庭とも協力して行く必要があると感じた。	・SNS上のトラブル、誹謗中傷などの見えない部分、目の届かない所でのいじめなどの対応は、大変だと感じずにはいられない。諸機関と連携し少しでもよい方向へ向かうことを祈っています。地域の大人として何ができるかも考えたい。 ・「いじめを訴えやすい体制を整える」とあります。子どもたちが先生方に何でも話せる環境をお願いします。 ・リアルもSNSも難しい問題ですがこれまで同様に教育、対応をお願いします。 ・学校だけでなく家庭とも協力していく必要があると感じた。とあるが、どのように行っていくのか具体的に考える必要があると思う。 ・いじめについて、月間運動などを通じて啓発活動をしてはいかがなものでしょう。	・新入生説明会でのスマホ使い方教室を今後も継続して実施する。 ・教職員のカウンセリングマインドの向上と、担任だけ依らない関係構築に努めていきたい。 ・家庭との協力としては学校でも模索中。通信での発信、HPでの発信だけでなく、できれば年度途中に複数回家庭も巻き込んでのスマホ使い方教室のようなものを実施したい。
	交通安全教育の推進	①地域・PTAと連携した交通安全指導の実施(年間9回)，交通委員会(毎週) ②交通安全教室，長期休業前後の全校集会での啓発活動。 ※学校アンケート「交通ルールやマナーを守っている」に“非常にそう思う”と回答　生徒70%以上(昨年度62.6%)　保護者50%以上(昨年度42.3%) ※生徒交通事故発生件数0件(昨年度1件)	①達成 ②交通安全教室は1年生で実施。全校集会での啓発活動実施。 学校アンケート「交通ルールやマナーを守っている」 生徒”非常にそう思う”49．6%、”どちらかといえばそう思う”46．3% 保護者”非常にそう思う”29.5%、”どちらかといえばそう思う”64．0% ※生徒交通事故発生件数 5件	○終業式、始業式で啓発活動を実施した。 ○令和4年度に向けて交通指導の場所を再検討し、保護者の要望も取り入れた。 ●1学期当初事故が多かったので継続的に呼びかけや指導を行う。	・自転車での事故が多い。子どもたちはもちろん、車を運転する私たち大人もルールやマナーを守って子どもたちの見本になるよう心がけたいと思う。 ・引き続き、定期的な指導を、被害者、加害者にならないよう指導をお願いします。 ・ヘルメットをかぶっていない1年生が下校時に多い。 ・地域などと連携し交通安全を進めてほしい。(今後の改善点・・・危険を感じると思った個所の周知、改善対策)	・自転車事故ゼロをめざして生徒への交通安全の呼びかけを今後も継続して行う。 ・学年集会等で危険個所の周知を行うようにしたい。
	防災教育の推進	①避難訓練を毎学期(年4回)実施。 ②校区小学校と連携した津波避難訓練(1年生)を実施する。 ※学校アンケート「災害危機管理について，保護者・地域との連携を図っている」に“非常にそう思う”と回答　保護者35%以上(昨年度26.2%)	①コロナ禍で2学期の避難訓練は見送り、3学期も雨天中止になった。3学期(3/11)に、避難訓練と防災教育を行う予定。 ②雨天のため津波・火災避難訓練は中止(一時避難のみ実施)。 ※学校アンケート「災害危機管理について，保護者・地域との連携を図っている」に“非常にそう思う”と回答　保護者7.4%	●コロナ禍と雨天により避難訓練の2次避難、3次避難が実施できなかった。 ●災害が起こった時に職員室から持ち出すものを確認する必要がある。 ●「事故・災害発生等緊急マニュアル」の見直しが必要。 ●雨天の場合に備え避難訓練予備日を設けてはどうか。	・継続は力なり。訓練の積み重ねがいざという時に役立つ。危機管理が体にしみついたら最高。 ・なぜ、箕田小に変更になったか、説明されても理解できていない生徒がいるので、もう少し丁寧に伝えてほしい。 ・災害は雨でもくるかも知れません。雨の場合はどうするか考えることも大切かも。 ・訓練中止となっているが、予備日を考えて実施をしてほしい。(今後の改善点・・・確実に実施する) ・防災訓練は一般的なものですが、復興についても少しは考える機会を与えては？	・避難訓練は雨天の場合の予備日や雨天の場合の避難について考えていく。 ・災害時の持ち出し書類を確認し、保管場所を周知する。 ・防災カルテ及び引き渡しカードの作成を行う。 ・防災学習の中身の精選を行い年間計画を立てる。
	施設・設備点検の徹底	①施設・設備の安全点検を毎学期実施。(年3回)	①学期ごとに分担して点検を行っている。チェック用紙は活用していない。	○報告のあった箇所についてはその都度修繕をしている。 電話機や雨漏り、体育館放送設備の修理を実施した。 ●老朽化のため修繕できない箇所もある。	・老朽化のため修繕できない場所についての安全は大丈夫でしょうか？ ・学校生活に支障の無いよう補修をしてほしい。(今後の改善点・・・可能な限り補修実施) ・新校舎でのマニュアル作りも必要かもしれません。	老朽化のため、修繕できない場所はあるが、安全に問題ないことは確認できている。今後も、日々の点検を行うことを心掛ける。 校舎新設の間も、快適に生活できるように、修繕を続けていく。

地域とともにある学校づくり	コミュニティースクール(学校運営協議会)の推進	① 全教職員の参加(9月)，校区合同学校運営協議会の開催(11月) ② 学校支援ボランティアの充実　登録人数30名以上(昨年度25名) ※「学校は，保護者・地域との連携を積極的に図っている」 保護者90%以上(昨年度91.2%)	①9月の全教職員参加の学校運営委員会はコロナ感染拡大による緊急事態宣言発令中のため実施することができなかった。11月校区学校運営協議会はリモートによるオンライン開催を行った。初めての試みであるが、生徒が体験しているオンライン授業の形態を運営委員会のメンバーにも体験していただくことがでいた。 ②学校ボランティア登録者数固定28名(昨年度25名) ※84．4%　コロナ感染予防のため、授業参観や学校開放などが実施できていない。	●コロナ渦のため協議までには至っておらず、具体的な連携内容は今後の課題。 ○1学期はルビ振りボランティア、まる付けボランティアの活動が活発であった。 年間を通じての活動としては図書ボランティアが中心となった。 ●環境ボランティアの活動を活発化させたい。	・1、2学期は、丸付けボランティア、ルビ振りボランティアさんが活発に働いて頂いた。やりやすい環境を整えてもらった。今年度、消毒ボランティアさんも新しく始まり、地域の方との連携のきっかけになればと思う。図書ボランティアは、先生からの指示もしっかりしておりやりやすかった。(今後の改善点・・・箕田小学校の保護者が比較的多いので若松、長太の保護者や地域の方の参加も増やしていきたい)	校区学校運営協議会を通して何ができるか、協議し、発信し、連携して地域全体が活性化できるような活動を考えていく。 地域Coを中心に、学校、学校運営協議会、PTA活動など連携を深め、ボランティア活動を推進する。
	保護者，地域との連携強化	①土曜の教育活動の中で，地域へ貢献できる生徒の育成を目指した取組を校区学校 運営協議会と連携して行う。 ②土曜授業参観や学校行事等を積極的に公開することで，保護者・地域の方が参加しやすい状況をつくる。 ※学校アンケート「保護者・地域との連携を積極的に図っている」に“非常にそう思う”と回答　保護者40%以上(昨年度26.3%) ※学校アンケート「地域行事やボランティア活動に参加した」に肯定的な回答　生徒50%以上　(昨年度42.6%) ※学校アンケート「通信やプリントを保護者にきちんと渡している」に“非常にそう思う”と回答　生徒50%以上(昨年度47.6%)	①土曜授業は4月(授業3限)の1回。9月は学校運営協議会とかねて実施する予定であったが、コロナ感染拡大のため実施でいなかった。 ②コロナ禍のため授業参観は、1回のみ実施。 ※学校アンケート「保護者…」11.6% ※学校アンケート「地域行事…」39.7% ※学校アンケート「通信や…」41.0%	○授業参観を1度であるが実施をすることができた。 ○授業・学校行事が公開できない中、通信、保護者会時の文化祭の映像公開など、学校生活の様子を伝える工夫は行ったが、保護者・地域に子どもの様子を十分発信することができなかった。	・保護者会時、合唱コンクールなどの映像が公開されたことはよかった。他の行事も様子を伝える場があれば、保護者、地域の方も喜ばれると思う。 ・コロナ禍でできることを考える必要性がありそうです。 ・コロナ禍での来客対応は大変ですが、一度でも実施できたことに感謝します。 ・若松地区で開催した卓球教室には卓球部員が指導者として協力していただき感謝しています。(今後の改善点・・・地域づくりとして生徒のボランティア参加をお願いしたい) ・運営協議会がオンライン開催で、リモート授業の大変さがよくわかりました。	土曜授業は年3回計画し、PTA活動との連携、学校運営協議委員との交流、小中連携に生かす。 行事や授業参観など、できる限り保護者、地域に公開する。通信、映像公開などで学校の様子を伝える工夫をする。
	校区小学校との協働	①小学校への出前授業の実施(年1回以上) ②校区の公開授業，校区交流会への参加(1人1回以上) ③校区合同メディアコントロール週間の実施(年2回以上)	①3学期に実施。 ②校区の授業公開と校区夏季学習会のどちらかで、ほぼ全員が参加。 ③9月と2月に2回　実施した。	①入学前の6年生の児童の様子を把握することができた。出前授業の内容や準備の仕方(まとめる役や実施時期など)については、小学校との相談をすすめていきたい。 ②校区の授業公開に教員が積極的に参加できるような学校の体制づくりが必要である。夏季学習会については、オンラインでの交流会実施となったが、6つの分科会にわかれて校区の児童生徒のことについて考える良い機会となった。 ③調査結果から分かった結果をもとに学校と家庭で連携した取り組みを引き続きすすめていきたい。	・引き続きお願いします。 ・今年度のリモート体験はとてもよかったです。 ・小学校への出前授業はとても楽しみなようです。これからも続けてほしいです。	コロナの状況にもよるが、校区の公開授業、校区交流会への参加方法を、今後もオンラインを利用して、円滑な運営に心がけたい。
働きやすい環境づくり	総勤務時間の縮減	①45時間以上の過重労働者0名(昨年度のべ72名) 年間時間外労働時間360時間以上0名(月平均30時間以下　昨年度13／27名) ②定時退校日の設定　月2日以上(80%以上退校) ③放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合　60%以上	①45時間以上(12月末)のべ　81人　(11月末のべ69人) ②定時退校日　月2日以上45.4% ③60分以内会議終了26.3%	●45時間以上勤務者が固定されているため年間360時間以内達成厳しい。実質仕事量が多すぎて、過重労働せざるを得ない。 ●定時退校日を意識をしつつも、まとめて仕事ができる日となっている。今後も部活動と連動させる。	・先生の仕事が多すぎます。家庭でできることは、できるだけ教員ではなく、保護者に行ってもらう方向を学校単位ではなく市、県レベルでお願いします。 ・何が何でも定時退校、という風土づくりが大切。 【働きやすい環境づくり　共通】 ・生徒達には家族の次に身近な存在なので、体調管理には十分注意していただき、明るく活気ある雰囲気になっていただきたいです。 ・働きやすい環境にするため変更していくことは大切なことです。学校単位では難しいかもしれませんが、効率化できる部分は積極的に変更してよい。	個々の仕事量ができるだけ偏らないように分掌の割り振りをする。引き続き行事や活動の見直しを行っていく。 定時退校日の無理のない設定と、交代で休暇が取りやすい雰囲気を職場で作っていく。 部活動については、今後社会体育の移行も考えながら計画を立てていく。 ボランティアなどの社会的資源を有効に活用できるように地域COと連携を図る。
	ワークライフバランスの啓発	① 休暇の取得促進　特休及び年休の合計取得　20日以上　(昨年度16.4日) ② 夏季休暇の完全取得	①休暇取得平均10.6日(11月末) ②夏季休暇取得率平均4.3日(完全5日)完全取得人数15人／27人中	○長期休業日など取得しやすい時に積極的にとることができた。 ●振替休日を優先すると十分に取りにくい職員もいる。		長期休業期間や年間の中で計画的・積極的に取ることを常に意識させ励行する。
	個別面談を通じた 働き方支援	①中間面談の完全実施　(昨年度100%)，開かれた校長室の推進 ②働き方改革についての研修の実施(意識改革の促進)	①中間面談完全実施できた。 ②職員会議などで啓発的な研修を行った。	◇中間面談の中で目標や働き方など確認することができた。 ◇月45時間以上の過重労働している教員は個別に面談を行った。	・結果に対して何らかの行動、面談を実施しているのは良いことだと思います。	今後も時間を確保し、面談での聞き取りや対話を大切にする。普段からの声掛けもさらに行っていく。 個々の仕事の充実感や満足感を聞き取りながら、時間管理を促す。
	効率的な職場環境の整備	①校務用ICT機器の有効利用，教材の共有化の推進 ②職員室内の整理整頓(年3回)	①ICT機器はほぼすべての教員が活用。教材の共有化も行っている。各種アンケートなどもICTを活用し業務の効率化を図った。 ②校舎内の大掃除整理については分担を決めて、1学期行った。年度末の大掃除も実施し、整理整頓に心がけた。	●担当や教科内での教材の共有化をさらに進めていく必要がある。 ◇消毒等も含めて、学期ごとの環境整備や整理整頓は今後も進める。	・5S活動の継続は、作業の効率化には大切なことだと思います。	ICT機器の効果的な活用を研修する。今後も教材の共有化を進めていく。 古い備品の廃棄を今後も定期的に行っていく。新校舎建設により引っ越し作業が必要になるので、早い段階でいらないものの処分を進める。職員室の机上整理は、個人情報の管理の面からも普段から気を付けるように声掛けをする。